

2-5

演題：小さなことから始める自立支援

副題：ご利用者主体の生活を目指して

日常生活

可能性

社会福祉法人 聖風会 特別養護老人ホーム 足立新生苑

介護職：荒木美穂

所在地：東京都足立区花畑4-39-10

TEL：03(3883)7946

E-mail：sinseien@seifuukai.or.jp

FAX：03(3860)0950

URL：<http://www.seifuukai.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

昭和30年開設、平成13年ユニットケア導入
デイサービス・地域包括支援センター・ケアマネジメントセンターを併設している。
入所定員：220名 ショートステイ：16名

〈取り組んだ課題〉

ユニットの前半期の目標として、「自立支援」が挙がり、「ご利用者ができるはずのことも、職員が行なってしまっているかもしれない」「もっと色々なことができるはずだ」という課題が挙がった。そこでまず、ご利用者に何でも取り組んで頂き、一人ひとりの能力を見極め、ご利用者主体の自立支援へとつなげていくこととなった。

〈具体的な取り組み〉

ご利用者13名へ6名の職員が、日々の生活支援の中で小さな気付きを大切に、一つひとつ実践していった。

- ・職員の意識改革
- ・実践と個々の能力の見極め
- ・待つ介護 ・意欲を引き出すような声かけ
- ・一人ひとりの能力や性格などに合わせた工夫
- ・困難事例への対応（認知症、依存傾向、虚弱なご利用者への自立支援）
- ・記録やコミュニケーションによる情報共有と振り返り

〈活動の成果と評価〉

1. ご利用者の可能性の発見
おやつを提供方法や整容面など様々な生活場面において、今まで職員が何気なく行っていたが、実際はご利用者が出来る事柄が数多くあった。
2. 社会性へつながる自立支援
お茶入れやお箸の用意など、ひとつの小さな能力が、ご利用者間の交流や役割へとつながった。

3. 自立支援の拡大

ひとつの能力の発見を、他利用者へ実践することで、ご利用者の可能性が広がった。

4. 上記1～3が、職員の喜びやモチベーションのアップへとつながった。

5. 個別性（個別支援）の重視

介助技術にも個別性があるように、自立支援も、一人ひとりに合わせた在り方が必要だとわかった。

〈今後の課題〉

いつでもご利用者の可能性を信じて下記を実践し、一人ひとりのその人らしい自立支援や安定した生活へつなげることが必要であると考えます。

1. 自立生活支援の継続
2. 認知症の方への自立支援の在り方を考える
一人ひとりの能力の見極めと適切な支援
3. 依存傾向のある方への自立支援の在り方を考える
依存の背景理解と、意欲を引き出すような支援
4. 虚弱、重度の方への自立支援の在り方を考える
意思を尊重するなどの、精神面の自立支援の実践
5. ケアワーカー一人ひとりの自立支援の考え方（認識）
の共有・理解と、目標・ケアの統一

〈参考資料など〉

おはよう21：2007.9・10 2008.1・2
月刊ケアマネジメント：2008.5 P18
ケアの本質・ミルトンメイヤロフ

【メモ欄】